

機関番号：34310

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520272

研究課題名 (和文) 16・17 世紀における地中海地図とシェイクスピア演劇

研究課題名 (英文) The Mediterranean Map and Shakespeare in the 16th and 17th Century.

研究代表者

勝山 貴之 (KATSUYAMA TAKAYUKI)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：30204449

研究成果の概要(和文)： 地図とは、最も「科学的」な地図といわれたものですら、測量術による客観性を基に作られたというよりも、むしろ社会の伝統や文化的規範によって描き出され、生み出されたものである。いかに精妙な地図といえども、人間が描くものである以上、そこには作者の主観的な世界観が、また時代や社会を支配するイデオロギーが介在することを否定することはできない。初期近代英国において重要な文化表象であった地中海地方の「地図」は、シェイクスピア演劇を考察するうえで興味深い。地図の研究を端緒に、イングランド人が地中海貿易を通して経験した異国人との遭遇によって、いかに自己成型 (Self-fashioning) を果たしたか、すなわちムーア人、モロッコ人、トルコ人、スペイン人、ユダヤ人等、他者との遭遇・接触が、イングランド人という国民のアイデンティティ形成にいかに大きな役割を果たしたか、という問題を探求した。

研究成果の概要(英文)： Even the most scientific maps, behind a mask of a seemingly neutral science, were depicted and created by cultural codes and traditional values in our society, rather than by the cartographic objectivity. It is undeniable that however refined a map may be, it is the expression of the author's worldview as long as it is a product of human being, and it is the reflection of the dominant ideology in the time and the society. Mediterranean maps, important cultural products in early modern England, are very interesting aids in studying Shakespeare's plays. This project, "The Mediterranean Map and Shakespeare in the 16th and 17th Century," has explored how English people tried to fashion themselves as "cosmopolitans" through foreign trade in the Mediterranean Sea, and how they tried to establish their national identity as "English" through encounters with peoples constituted as "Other" to them, such as Moors, Moroccans, Turks, Spaniards, and Jews.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：英米文学、近代初期英国演劇、シェイクスピア、地図、地中海

1. 研究開始当初の背景

2002年度から2006年度にかけて基盤研究(C)に採択された「16・17世紀イングランドにおける地図製作とシェイクスピア演劇」のプロジェクトを進めてきたが、この研究だけでは、16・17世紀イングランド人の主体形成を考えるうえで、重要な位置を占める地中海地域との関係が十分に探求できていなかった。地中海貿易における異国人(他者)との遭遇は、イングランド人のアイデンティティ形成に大きな役割を果たしたはずであり、この地域への言及なしに、イングランドという国家の成立を語ることは不可能であろう。2007年度から2010年度にかけての科研プロジェクト「16・17世紀における地中海地図とシェイクスピア演劇」は、イングランド人が地中海貿易に参入するなかで、ムーア人、モロッコ人、トルコ人、スペイン人、ユダヤ人等の他者と遭遇・接触したことが契機となって、いかに自己成型(Self-fashioning)を果たしたかの問題を解明しようとしたものである。

2. 研究の目的

(1)16・17世紀の地中海地図とシェイクスピア演劇の関係性を解明しようとするこの研究は、2002年度から2006年度にかけて科研基盤研究(C)に採択された「16・17世紀イングランドにおける地図製作とシェイクスピア演劇」のプロジェクトを一層拡大・発展させ、イングランド地図から地中海地図へとその研究対象を広げようとするものである。

(2)地中海を往来する異国人(他者)との遭遇を通じ、イングランド人が自己のアイデンティティを形成してきた過程を、文化の産物ともいえる「地図」を使って解き明かし、地図に描かれた国家形成、国民形成のイデオロギーが、シェイクスピア演劇のなかにもどのような形で表象されているかを探求していくことを目標とした。

3. 研究の方法

(1)科研基盤研究(C)への採択により、過去4年間に収集してきた英国地図資料から収集対象地域を広げ、地中海を含めたヨーロッパ地図資料を収集した。

(2)地中海世界の研究については、Fernand Braudelの古典的名著があるが、近年ではRobert Brenner著 *Merchants and Revolution* (1993)等も地中海貿易を論じ、大いに参考になる。これらの書物に代表されるような、歴史的、経済的、文化的な視点から近代初期における地中海世界を探求した文献資料を収集した。

(3)シェイクスピア演劇関連の資料については、ヨーロッパの地図との関連にふれた研究、および異邦人との接触をとおしてイングランド人の自己成型が果たされる過程を研究した文献を中心に、資料収集を進めた。

(4)以上の資料の収集にあたっては、日本国内で収集可能な関係資料を購入、あるいはインター・ライブラリー・サービスを使って、国立大学図書館・私立大学図書館から可能な限りの資料収集に従事した。科研補助の1年目には、英国ロンドン大学の図書館において、また3年目には、米国ボストンのハーヴァード大学図書館、ニューヨークのコロンビア大学図書館、カリフォルニア大学バークレイ校図書館で資料収集にあたることができた。

4. 研究成果

(1)平成19年度から国内外において資料収集を進め、地中海世界の研究を遂行するなかで、イスラム世界との接触がキリスト教世界に大きな影響力を持っていたことを、様々な角度から探求していく必要性を認識するようになった。

(2)地中海地図と『ヴェニス商人』 - モロッコとイングランド

①当時の地中海地図をもとに、『ヴェニス商人』のなかで言及される地名が、地中海貿易というよりも新大陸貿易の拠点であったことを証明し、イスラム世界、特にモロッコ、とイングランドの関係を歴史的に跡付けることによって、当時のイングランド人の精神的葛藤を分析した。

②国際都市になろうとしているイングランドにとって、理性の上では納得しているはずの平等意識と、感情面においては反発を引き起こさずにはおれない差別や偏見との衝突を指摘し、それらを克服していかなければならない人々の内的葛藤を分析対象とした。地中海における国際社会の一員となろうとするなかで、異人種婚姻に対する嫌悪と恐怖は、貿易の発展を念頭におくなら、承服し容認していかなければならない矛盾であったことを、『ヴェニス商人』のテキストをもとに論証した。

(3)地中海地図と『オセロ』 - オスマン・トルコとイングランド

①地中海世界を描いた地図において、イスラム圏に取り囲まれた島であるキプロス島の軍事的および文化的意味に注目し、悲劇『オセロ』の分析を試みた。劇中、公爵が憂うキプロス島はブラバンショーにとってのデズデモーナであり、島を侵略しようとする

るオスマン・トルコはひとり娘を強奪したムーア人オセロであるという台詞は注目に値する。異教徒による領土侵犯と、改宗者とはいえ異邦人であり、キリスト教圏における他者である人物による女性略奪のエピソードは、劇の背後に潜む当時のイングランド人の不安と恐怖を言い当てていることを立証した。

②これは単にイングランドのみの問題ではなく、イスラム世界と対峙したキリスト教ヨーロッパ世界の問題とも見なすことができる。劇の台詞が物語るように、地中海を舞台にした国際社会において、イスラムの脅威に脅えるキリスト教ヨーロッパ社会は、異教徒である他者に対して警戒し、容易にその侵入を許そうとはしない。あえてキリスト教社会に順応しようとする者に対しては、改宗を求め、自分たちの社会の規範や道徳に対する絶対的な服従を条件とする。それはキリスト教社会の社会規範による、彼らのアイデンティティの書き換えと共に、彼らを内側に取り込むことによって、キリスト教社会の知の認識の中に組み込み、回収することに他ならない。イスラム世界という巨大な「他者」と遭遇したキリスト教世界の精神的葛藤を解説した。

③劇の結末において、命をもってキリスト教社会への罪の償いをするオセロに観客は納得し、自らの血潮をもって内なる他者を消滅させようとする主人公の姿に承認を与えたという事実を重視し、そこに観客のうちに潜む、イスラム世界への底知れぬ恐怖をいかにして乗り越えるのかというキリスト教徒の精神的葛藤を指摘した。それは自分たちが、呑み込まれ、取り込まれ、回収されてしまうことへの果てしない恐怖の裏返しとも呼べるものである。『オセロ』という芝居は、まさにイスラムとの避けがたい対立を意識したキリスト教ヨーロッパ社会の自意識が生み出した作品ともいえることを論証した。

(4) 今後の展望

過去4年間の科研助成期間をとおして、地中海貿易とシェイクスピア演劇の関係を調査・研究するうちに、地中海におけるイングランドの政治・貿易を語るうえで、イスラム世界の存在は無視できないことに気づかされた。従来、ヨーロッパ中心という視点に陥りがちであったシェイクスピア研究が、イスラム世界の存在を軽視してきたことは否めない。初期近代のイングランド人は、圧倒的勢力を誇るイスラム世界との接触をとおして、異教世界に呑み込まれ支配されてしまうのではないかという不安と恐怖を経験していたのである。そして自らの内なる怖れを克

服し解消するためのある種の浄化作用を、演劇という芸術形式のなかに求めたに違いない。圧倒的勢力を誇るイスラムという「他者」と対峙したイングランド人の精神的葛藤は、シェイクスピア演劇の中にどのような形で表象されたか、という問題を中心に、その解明に取り組んでいきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 勝山貴之
『オセロ』とイスラム世界—17世紀初頭のキリスト教ヨーロッパ世界が抱いた不安と葛藤『同志社大学英語英文学研究』 査読有 第86・87合併号(2010年) pp.1-26
<http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/>
- ② 勝山貴之
「地の果てからの来訪者と『ヴェニス商人』」『同志社大学英語英文学研究』 査読有 第84号(2010年) pp.23-55.
<http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/>
- ③ 勝山貴之
「イングランド地図の成立と歴史劇—『ウッドストック』、『リチャード二世』、『ヘンリー四世』二部作」『同志社大学英語英文学研究』 査読有 第83号(2008年) pp.1-37.
<http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/>
- ④ 勝山貴之
書評 David Armitage, Conal Condren, and Andrew Fitzmaurice eds., *Shakespeare and Early Modern Political Thought*. Cambridge: Cambridge U. P., 2009. 査読有 *Shakespeare Studies* 48 (2011年) 日本シェイクスピア学会

参考論文 (計4件)

- ① 勝山貴之
「プロスペローの“humane care”—征服者ではなく庇護者たろうとするイングランド人の不安と葛藤」『同志社大学英語英文学研究』 査読有 第85号(2009年) pp.1-28.
<http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/>
- ② 勝山貴之
「カトリック穏健派とプロテスタント遵法者—アンソニー・マンディと

『サー・トマス・モア』 『主流』
査読有 第 71 号(2009 年) pp.1-20.

③ 勝山貴之

「カトリック穏健派と詩的想像力—
サウスウェルとコンスタブルを
めぐって」 『主流』 査読有
第 70 号(2008 年) pp.1-17.

④ 勝山貴之

「Robert Parsons の *A Conference
about the Next Succession to the
Crown of England*—1590 年代のイン
グランドにおいて弾圧の対象となった
書物にみる政治と宗教」『同志社大学英
語英文学研究』 査読有 第 81・82
合併号(2008 年) pp.25-49.
<http://doors.doshisha.ac.jp/webopac/>

[学会発表] (計 4 件)

① 勝山貴之(セミナー・コーディネーター)

セミナー：シェイクスピアとイスラム
世界
発表 「『オセロ』とイスラム世界」
日本シェイクスピア学会 第 49 回大会
平成 22 年 10 月 17 日 於 福岡女学院
大学
<http://www.s-sj.org/htmls/SN50-2.html>

② 勝山貴之

「『オセロ』とイスラム世界」
関西シェイクスピア研究会 2 月例会
平成 22 年 2 月 21 日 於 同志社大学
(室町キャンパス)

③ 勝山貴之

「地の果てからの来訪者と『ヴェニス
の商人』」
日本シェイクスピア学会 第 47 回大会
平成 20 年 10 月 11 日 於 岩手県立
大学 (滝沢キャンパス)
<http://www.s-sj.org/htmls/SN48-2.html>

④ 勝山貴之 (セミナー・メンバー)

「イングランド地図の成立と歴史劇」
セミナー：「歴史劇の面白さ」(コ
ーディネーター 廣田篤彦)
平成 19 年 10 月 7 日 於 早稲田大学
戸山キャンパス
<http://www.s-sj.org/htmls/SN47-2.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

勝山 貴之 (KATSUYAMA TAKAYUKI)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：30204449

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし